

③ 台風先生の講義・1日目 ～ JUMPsystem の概要～

登場人物紹介

台風先生

アメリカの大学で日本語を教える先生。これまでの経験から、JUMPsystemを開発した。このやり方なら、日本語をシステムとして捉え、外国人が少ない努力で日本語を身に付けられると自信満々である。ニックネームが台風だけあって、人を巻き込む力と熱さでは負けない。時々、熱が入りすぎて、暴風雨警報が出る。



サク(僕)



サク(僕)

台風先生の音楽仲間だったが、一本の電話で日本語教育の世界に巻き込まれてしまった。台風先生とは長いつきあいだから、台風の威力がある程度は受け止められるようになってきたが、時々、どっぴりと疲れてしまう。いつか台風先生を巻き込んでやろうと狙っている。

(1) まずは全部、捨ててみる

台風先生「悪いけどさ、サクちゃん、ちょっと確認していい？」

サク「何？」

台風先生「これからさ、ボクがJUMPsystem (ジャンプシステム) の概要を説明するんだけどさ、その前にもう一度、確かめたいことがあるんだよね」

サク「(台風先生がしつこいのは分かっているんだけど、ちょっとムツとして) 何を確かめるの？ 悪いけどね、僕、やる気はないよ」

台風先生「やる気はこの際、いいんだけどさ、それよりも……」

サク「やる気はなくてもいいの？」

台風先生「サクちゃんの場合、やらなきゃいけないことなんだからさ(完全な押しつけ)、それは別にして、これを確認したいんだよ。(サクの言葉を待たずに) サクちゃんがさ、日本語を外国語として捉える勇気があるかってことをね」

サク「日本語を外国語として捉える勇気ねえ……」

台風先生「それができてないと、ボクの話の聞いているうちに怒り出すかもしれないからさ……」

サク「どういうこと？」

台風先生「日本人は日本語を大切に思っている。それは大事なことなんだけど、日本人が大切にしたいことって、必ずしも外国人には大切じゃないんだよね」

サク「え？」

台風先生「ボクたちはね、日本人で日本語のことをよく知っている。だから、ちょっとした言い回しとか、意味の違いにこだわることもあるし、実際にそれをやらなきゃいけないんだけどね、外国人は違うよ。特に初級者に教えるとき、そうした細かな意味の違いに囚われすぎると、かえって混乱させてしまうんだ。……自分が英語を勉強したときのことを考えると分かるよ。喋られる人はともかく、初級の場合はさ、細かな意味の違いよりも、大切なのは自分の言いたいことを何とかして伝えること、相手の言っているだいたいの意味を捉えることが大切なんだよ」

サク「そうか。……僕たちは外国人に日本語を教えることを目的にしているから、妙なこだわりは捨てなきゃいけないんだ」

台風先生「JUMPsystemの基本の一つは、学習者本位ってことだ。外国語として日本語を見たとき、どう考えるのが一番分かりやすいのか、学習しやすいのか、それを第一に考える。……だからね、ボクたちは勇気を持たなきゃいけない。日本語を外国語として捉える勇気をね」

サク「勇気、ねえ……。具体的に、何をすればいいんだろうねえ……」

台風先生「具体的にはね、まず、これまでの品詞を捨てて、新しい名前と呼ぼうよ」

サク「品詞って、動詞とか名詞とかいう、単語を分類するときを使う名前だよ？」

台風先生「JUMPsystemでは、動詞とか、名詞とか、言わないようにするんだよ。そうじゃないと、英語文法の影響が残っちゃう」

サク「英語文法の影響？」

台風先生「英語の名詞と日本語の名詞は、必ずしも一致しないんだよ。動詞もそうだし形容詞もそう。……勉強する人も教える人も、今から自分たちが扱う言語が英語とは全然違う物だと理解するためにも、JUMPsystemでは違う名前と呼ぶことにしてるんだ(きっぱり)」

サク「それって、不便だと思うんだけど……」

台風先生「不便でもその方がいいんだよ！ はじめは大変だけど、慣れてしまえばこの方がすっきりと理解が進むんだよ。だって、名前を変えるだけで、英語文法からの影響を受けずに、別の言語として日本語を扱えるんだからさ、その方がいいに決まってるの！」

JUMPsystemは学習者本意だ。
日本人の気持ちより、外国人学習者の効率を優先する。

何しろ相手は台風だから、逆らえない。

で、台風先生は JUMPsystem の説明をする前に、新しい名前を教えてくれた。台風先生はアメリカで日本語を教えている。だから新しい名前も英語を使ったものだ。

台風先生によると、彼は彼なりに日本語としても使える別の名前を用意したことがあつ